

事例 36

タイトル: 私の思いを分かって! 状況がわからないことの不安

・ < 事例の状況 >

認知症を発症し、自宅から娘宅へ引越しをして、デイサービスを受けながら生活する。その後、当グループホームに入居。得意の家事作業をして生活するが、認知症が進行し、夜間の不眠、終日の焦燥感により「どうして、どうして」「早く、早く」等落ち着かなくなったり、強い口調で他者に攻撃したりするなどが目立ち、利用者間のトラブルも多くなってきた。不穏時は個別に散歩に出たり、買い物に車で出かけるなど気分転換が出来ることもあったが、徐々に集中できる時間が少なくなり、個別の対応でも気分が和らがないことが多い。1日おきくらいに家族の面会があり、一時は気分が落ち着くが、焦燥感や混乱のほうが強く、スタッフに対する訴えも多くなり、スタッフ自身がストレスを抱えてしまう状態が目立っている。

・ < この事例で課題と感じている点 >

終日聞かれる焦燥感の訴え、徘徊によりグループホームの中でその行動が目立ち、他者とのトラブルがあり、スタッフがストレスを感じ、思いに添ったケアが出来ない。

・ < キーワード >

本人とスタッフのストレス

・ < 事例概要 >

【年 齢】 90歳代前半

【性 別】 女性

【職 歴】 主婦業の傍ら自営業を営む夫を手伝ってきた。本人が70歳代後半の時に廃業。

【家族構成】 娘(複数)

【認知機能】 NMスケール重度

【要介護状態区分】 要介護5

【認知症高齢者の日常生活自立度】

【既往歴】 胆石、卵巣膿腫、白内障手術

【現 病】 認知症

【コミュニケーション能力】 気分によっては呼び掛け、声掛けに返事、笑顔がある。不穏な時には一方的に訴えがあり、耳からの情報を理解することが困難。

【服用薬】 テトラミド 一日おきに夕食時

【性格・気質】 穏やかではあるが、気に入らないことがあったり、本人では理解できないことがあると怒る。

【A D L】 食事は一部～半介助。歩行は膝の痛みをかばいながらであるが可能。

トイレ誘導を行い、時間を要するが排泄可能。(失禁ほとんどなし)

入浴は気分の良い時にゆっくり関われば家庭浴で入浴可。

【障害老人自立度】 A2

【生きがい・趣味】 家事全般

【生活歴】 戦前、戦中、戦後と長男の嫁として両親、小姑の世話、娘たちの教育に休むことなく動いてきた。

主婦業の傍ら自営業を営む夫を手伝ってきた。本人が70歳代後半の時に廃業。婦人会長など地域の活性化のために尽くした。

趣味の遊び等せず主婦の鑑と呼ばれていた。

実生活に必要なことは何でも得意（洋裁含む）。

【人間関係】 娘夫婦（キーパーソン）の面会が頻繁にある。遠方に住む娘達の面会も時折あり、大切にされている。つじつまの合わない言動が多く、他利用者との会話はほぼ困難である。

【本人の意向】 穏やかな生活

【事例の発生場所】 グループホーム